

21

〔漢文と書き下し文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔青森〕

〔漢文〕

漢人^ニ有^リ適^ニ呉^ニ。呉人^ニ設^レ筭^ヲ、問^フ是^レ何^ノ物^ト。語^リ曰^{ハク}、「竹^ト也。」婦^ニ煮^ル其^ノ床^ヲ簀^ヲ而^{シテ}不^レ熟^セ、乃^チ謂^フ其^ノ妻^ニ曰^{ハク}、「呉人^ハ輓^ヲ、欺^レ我^ヲ如^シ此^ノ。」

〔笑林〕による

〔書き下し文〕

漢人^ニに呉^ニに適^スくもの有り。呉人^ハ筭^ヲを設^ケれば、問^フ「是^レ何^ノ物^トぞ。」と。

〔呉の国の人だ。〕

語^リて曰^{ハク}、「竹^{ナリ}なり。」と。婦^リて其^ノ床^ヲ簀^ヲを煮^ルるも熟^セせず、乃^チ其^ノ妻^ニに曰^{ハク}、「呉人^ハ輓^ヲ、欺^レ我^ヲ如^シ此^ノ。」と。

〔竹です。〕

〔煮えなかつたので。〕

の妻^ニに謂^フひて曰^{ハク}、「呉人^ハは輓^ヲたり、我^ヲを欺^クこと此^ノのごとし。」と。

〔このようだ。〕

〔注〕床^簀…ベッドに敷くための竹で編んだ敷物 輓^ヲ…人を偽り、欺くこと

〔必〕(1) 「有^リ適^ニ呉^ニ」に、【書き下し文】を参考にして、返り点を書きなさい。

有^リ 適^ク 呉^ニ

〔類〕(2) 「問^フ」の主語として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

い。

ア 作者 イ 漢人 ウ 呉人 エ 妻

〔3〕 【漢文】にある「漢人」と、次の【資料】にある「宋人」について、両者に共通する内容として最も適切なものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

い。

〔資料〕

宋人^ニに田^ヲを耕^ス者^有り。田^中に株^有り、兔^走りて株^ニに触^レれ、頸^ヲを折^ルりて死^ス。因^リて其^ノ未^熟を積^テて株^ヲを守^リ、復^タ兔^ヲを得^ルんと冀^ムふ。
〔宋の国の人で畑を。〕 〔畑の中に木の切り株があり。〕 〔突き当たり。〕
〔ここで自分のすきを放り出して。〕 〔切り株の番をし。〕 〔再び。〕 〔手に入れようと待ち望んだ。〕
兔^復た得^べからずして、身^ハは宋^國の笑^トと為^レり。
〔兔を復せば〔手に入れることができます。〕 〔彼自身は。〕〕

〔韓非子〕による

ア 両者とも自分の思い違いに気づいていない。
イ 両者とも自分の失敗を人のせいに行っている。
ウ 両者とも古い習慣を改めることができない。
エ 両者とも予想通りになって満足している。

〔漢文と書き下し文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。漢文を書き下し文に書き改めたもので、陳の国を攻め取ろうと考えた楚の国の莊王が、使者に陳の国の様子を視察させ、その結果を報告させた場面のものです。〔群馬〕

使者曰^{ハク}、「陳^ハは伐^ツつべからざるなり。」と。莊王曰^{ハク}、「何^ノの故^ゾ。」

と。対^シて曰^{ハク}、「其^ノ城^郭は高^ク、溝^壑は深^ク、蓄^積は多^ク、其^ノ国^ハは寧^シし。」と。王曰^{ハク}、「陳^ハは伐^ツべきなり。夫^レ陳^ハは小^國なり。而^{シテ}其^ノ蓄^積多^シ。蓄^積多^クければ、則^チ賦^斂重^ク、賦^斂重^クければ、則^チ民^上を怨^ムむ。

と。對^シて曰^{ハク}、「其^ノ城^郭は高^ク、溝^壑は深^ク、蓄^積は多^ク、其^ノ国^ハは寧^シし。」と。王曰^{ハク}、「陳^ハは伐^ツべきなり。夫^レ陳^ハは小^國なり。而^{シテ}其^ノ蓄^積多^シ。蓄^積多^クければ、則^チ賦^斂重^ク、賦^斂重^クければ、則^チ民^上を怨^ムむ。

II

楊香は一人の父を持てり。ある時、父とともに山中へ行きしに、たちま

ち荒き虎にあへり。楊香、父の命を失はんことを恐れて、虎を追ひ去らん

としはべりけれども、かなはざるほどに、天の御あはれみを頼み、「こひ

ねがはくは、わが命を虎に与へ、父を助けてたまへ。」と、こころざし深

くして祈りければ、さすが天もあはれと思ひたまひけるにや、今まで、た

けきかたちにて、取り食らはんとせしに、虎、にはかに尾をすべて、逃げ

退きければ、父子ともに、虎口の難をまぬがれ、つつがなく家に帰りはべ

るとなり。これ、ひとへに、孝行のこころざし深き故に、かやうの奇特を

あらはせるなるべし。

(「御伽草子集」による)

必(1) 「脱身饒口中」について、「書き下し文」を参考にして、返り点を

書きなさい。

脱身饒口中

必(2) 「こひねがはくは」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

Blank box for writing the modern kana version of the text.

(3) 「虎を追ひ去らんとしはべりけれども、かなはざるほどに」の楊香の置か

れた状況を表す言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えな

さい。

- ア 安泰 イ 好機 ウ 窮地 エ 混迷

Blank box for the answer to question 3.

(4) 山中で虎と出会ったとき、楊香はどのような行動をとりましたか。Iの

漢詩とIIの古文における違いについて、解答欄に合うようにそれぞれ現代

語で書きなさい。

I 漢詩では、

II 古文では、

(5) 「父子ともに、虎口の難をまぬがれ、つつがなく家に帰りはべるとなり」

について、作者は父子ともに無事に帰り着くことができた理由をどのように

考えていますか。「〜と考えている。」に続くように、三十文字以内の現代語で

Blank box for writing the answer to question 5.

24

〔漢詩〕

次の漢詩は、李白が友人の汪倫に対して、感謝の思いを詠んだもので

贈汪倫

李白乗舟将欲行

忽聞岸上踏歌声

桃花潭水深千尺

不及汪伦送我情

汪倫に贈る

李白舟に乗って

将に行かんと欲す

忽ち聞く岸上踏歌の声

桃花潭水深さ千尺

及ばず汪倫我を送るの情に

ア 住みなして イ くませ ウ いふ エ 入れて

(3) 「万に心を付けて」の解釈として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの人に手伝ってもらって
イ 十分な報酬を期待して
ウ あらゆることを面倒に思って
エ さまざまなことに配慮して

(4) 「をかしけれ」は歴史的仮名遣いで書かれています。これをすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書きなさい。また、次のうち、波線部が現代仮名遣いで書いた場合と同じ書き表し方であるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言ふべきにあらず イ 定まらずひらめいたり
ウ 草の戸も住み替はる エ 松島の月まづ心にかかりて

(5) 次の会話文は、悠一さんと絵里さんが本文を学習したあと、本文について話し合ったものの一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

悠一 本文から、もてなす側ともてなされる側が、茶の湯を好む者として「A」でないことが読みとれるね。

絵里 そうだね。Bところから、本文に登場する客のような「C」を相手にするときには、もてなす側が、そのような者を相手にしているのだと理解しておく必要があると分かるね。

悠一 もてなす側ともてなされる側が「A」にすることができなければ、茶の湯の味わいも十分ではなくなるんだね。

(a) A、Cに入る最も適切な表現を、本文中からそれぞれ四字で書き抜きなさい。

A

C

(b) Bに入る最も適切な表現を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 客が「朝顔の茶の湯」を希望したのに遅い時間に来たことに対し、亭主は立腹して遠回しに客を非難するようなふるまいをしたが、客に通じなかった

イ 客が日付を勘違いしたうえに反省する様子がないことに対し、亭主は腹を立てて追い返そうとさまざまな行動をとったが、客は気づかなかつた

ウ 客が「朝顔の茶の湯」を頼んだのに昼前に来たことに対し、亭主は怒りが収まらずもてなしながらも声を荒げて叱つたが、客は聞き入れなかった

エ 客が大変早い時間に来たうえに平然とした様子であることに対し、亭主はいらだちを覚え客を困らせるような態度をとったが、客に伝わらなかった

26

〔古文〕

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈兵庫〉

*かまぐらの中書王なかじやうおうにて御鞆ごまるとありけるに、雨降りて後、未だ庭の乾かざりければ、いかがせんと沙汰さたありけるに、佐々木ささき隠岐入道おきのちゆうのりきゆう、鋸のこぎりの屑くずを車くるまに積みみて、おほく奉りたりければ、一庭に敷かれて、泥土でいどのわづらひなかりけり。

鎌倉中書王の御所で鞆の会が相談することが

「取り溜めけん用意、ありがたし」と、人感じ合へりけり。

この事のある者の語り出でたりしに、吉田中納言よしたのちゆうなごんの、「乾き砂子の用意5やはなかりける」とのたまひたりしかば、恥づかしかりき。いみじと思ひける鋸の屑、いやしく、異様の事なり。庭の儀を奉行する人、乾き砂子を

